

平成25年度瑞陵会総会・交流会

25年度総会・交流会は、2013年8月25日(日)12時30分から約170名の参加者を得て、メルパルクNAGOYAで開催されました。還暦学年が開催当番になっての3年目となり、23回生が中心となって準備・運営がなされました。

第1部は、司会の江副嘉彦副会長(16回)が開会を告げた後、中村利雄会長(17回)が挨拶をされました。同窓の仲間としての絆の大切さとともに、瑞陵高校への支援・在校生の教育活動の充実・卒業生の同窓会活動の活性化に寄与することを目的した「一般財団法人 瑞陵高校瑞陵会基金」の設立に向けた状況を話されました。その中で、市内に現存する最古の講堂で、歴史的建造物として文化的価値の高い旧講堂「感喜堂」の保存と活用について、また、2017年(平成29年)に創立110周年を迎えるに当たり記念事業を実施したい旨を話され、会員の協力を呼び掛けられました。この後、総会の議事が行われ、同じ1F「輝の間」で、記念講演(後述)が行われました。

第2部の交流会は、2F「瑞雲西の間」に会場を移し、一之瀬喜之副会長(18回)の開会挨拶で、和やかな雰囲気の中で始まりました。来賓の挨拶では吉沢雅之校長が、在校生の活躍ぶりと瑞陵会の様々な援助への感謝を述べられました。その後、岡本信明顧問(22回)の乾杯の発声で、ビュッフェ式の華やかな料理を食べながら会話を弾ませる、



楽しい時間となりました。

アトラクションでは、当時の応援団リーダー部、石川一成氏(22回)と大脇正哉氏(23回)が中心となり、応援歌「ああ若人の血は燃えて」、「ああ瑞陵の若人よ」や、逍遙歌「神の啓しに」を、太鼓の演奏や演舞を交えて、披露しました。参加者の中には、肩を組んで懐かしく歌う方々もあり、瑞陵高校への思いが一体となったひとときでした。その後、恒例のお楽しみ抽選会、校歌斉唱と続き、青木偉晃副会長(17回)の閉会挨拶でお開きとなりました。

役員と当番学年の23回生の皆様の温かさが、心にしみる会となりました。改めて、皆様のご尽力に感謝いたします。

平成26年度瑞陵会 総会・記念講演・交流会のお知らせ

日時 2014年(平成26年)8月24日(日) 12:30~16:30

場所 メルパルク名古屋

名古屋市東区葵3-16-16 (JR千種駅徒歩5分、地下鉄千種駅1番出口すぐ前)
 電話 052-937-3665

会費 5,000円 当日会場でお支払いください(63回生(平成23年3月卒)以降の卒業生無料)

日程 12:00 受付開始

12:30 瑞陵会総会(1F 輝の間) …終了後講演会準備

13:30 記念講演(1F 輝の間)

講師 判治 誠吾 大同メタル工業株式会社社長(瑞12回)

演題 「人を育てる」 …終了後移動(受付も移動)

14:30 交流会(2F 瑞雲西の間 ビュッフェ式)

記念講演

演題 「秦琴と私」

講師 深草アキ(20回)

[本名: 深草 彰]



〈主な経歴〉

- 1974年 慶應義塾大学法学部 法律学科卒業
 - 1979年 秦琴と出会い、新たな音の創作を始める
 - 1986年 TBSラジオ「筑紫哲也のニュースジョッキー」のテーマソングを作曲、演奏
 - 1987年 NHK大河ドラマ「武田信玄」の挿入歌演奏
 - 1995年 NHKドラマ「蔵」の音楽を担当
 - 2000年 坂東玉三郎公演「海神別荘」の音楽を担当
 - 2006年 尾上松緑主演「夏の夜の夢」の音楽を担当
- ※現在、1枚のDVDを含め、12枚の作品をリリース

〈秦琴とは〉

中国の古典楽器で、その故郷である中国に於いても専門の演奏家の少ない珍しい楽器。深草氏は、この楽器と30年前に出会い、独自の音色をもつ音楽を創りあげてきた。秦琴を用いた音楽家は、深草氏一人である。

前日よりスタッフ2人とともに東京より来名し、マイク等のセッティングやリハーサルを行うなど、当日は、音楽を生業とする深草氏の意気込みを感じた講演や演奏となりました。秦琴演奏家になったいきさつや、楽器のことを話しながら、4曲の演奏がありました。秦琴の音は、日本の琴や三味線の音に似て非なる音で、聴く者の心に響いていました。

また、優しい人柄が話や演奏に表れ、その魅力は会員の心をつかみ、持って来たCDは完売され、好評を得ています。



会 長 挨拶

瑞陵会会長 中村 利雄
(瑞17回)

瑞陵会会長に就任して2年が経ちました。この間、瑞陵会の財政基盤の強化のための賛助会員制度の導入、2017年に迎える創立110周年記念事業等のための一般財団法人瑞陵高校瑞陵会基金の設立、更には同窓生各位の交流の拠所となる会員名簿の発刊等々の事業を進めてまいりました。お陰様で多くの会員の皆様の賛同を得て賛助会員は26年6月末で680人、110周年事業のための寄付は同じく850万円、名簿は10月上旬刊行予定、感喜堂の耐震補強工事着手は7月28日と事業は着々と進んでいます。しかし、いまだ道半ばかと思えます。

多くの多様な会員から構成される同窓会組織の運営には、

他の企業や団体とは違った難しさがあります。私が現在勤務しています日本商工会議所は514の各地商工会議所とその傘下の126万会員企業から構成されていますが、常に会員とのコミュニケーションの向上に取り組んでおり、そのキーワードは現場主義と双方向主義です。同窓会においても、現場主義に基づく会員の生の声の収集と双方向主義による会員間、会員と会との相互理解の進展は、会の円滑運営に不可欠と考えています。これまで以上にこのことに留意して会の運営に当たりたいと思います。

最近、母校やOBの活躍がマスコミ等で取り上げられることが多くなっているように思います。このことは、会員の絆を深める上でも大変好ましいことと思いますし、また、在校生や入学希望者にも大いに励みになると思います。110周年を契機にしてこれまで以上に同窓会活動が活発化し絆が深まり、同窓会活動に参加することがより楽しくなるようにしたいと考えています。会員各位のより一層の御支援、御協力、御参加を期待しています。



食物科65周年、定時制75周年

校長 吉沢 雅之

歴史と伝統ある瑞陵高校の同窓生の皆さんからは、現在本校に通う生徒の一人ひとりに大なる夢の実現を期待していただきながら、様々な形で励ましていただいていることに心から御礼申し上げます。

今年は創立110周年に向けての事業の原案も提示下さり、同窓生と現場の生徒職員との間の一体感がさらに高まりつつあるように思います。まずは日頃の教育活動にできるだけ支障がないように感喜堂の改修工事が無事終わることを祈念しております。また、同窓生の熊沢様によって設立された一般財団法人瑞陵高校助成基金からは、本年特別に「イタリア・フランス見学の旅」を企画・贈与していただき、さらに生徒たちの情報教育活動推進のためタブレット50台を貸与していただくことになりました。皆様の生徒に向けた熱い思いと迅速な対応に教職員一同身の引き締まる思いです。

さて、今年度で私は60になりますが、食物科や定時制はどうでしょうか。五中―瑞陵百周年記念誌によりますと、食物科という名称は1963年度からのようですが、全日制課程家庭技芸課程（食物を主とする）ができたのは1954年で私と同じ60周年を迎えることとなります。けれども1984年発行の「食物科三十五年のあゆみ」という冊子では、瑞陵高校の設立当時の「家庭課程（被服・食物を主とする）」から数えているようで今年は65周年というのが正解のようです。

それから定時制ですが、同記念誌には次のようにあります。「1940年（昭和15年）2月、愛知県熱田夜間中学校が創設された。入学資格は尋常小学校卒業、修業年限は5年とされていた。」このことから、2015年2月には75周年を迎えることになり、本年度は75周年とっていいでしょう。

実際1989年11月には50周年記念式典が挙行されており、その年から今年が25年目にあたり11月に75周年記念式典を開催してもおかしくない年ではあります。

このように食物科・定時制ともに記念すべき年に、感喜堂の改修工事と食物科棟の耐震改修が行われるのも何かの縁であろうと思います。感喜堂の改修保存工事は、予想される予算の関係上きわめて実現が難しいと思われていたが、同窓生とりわけ役員の方々の並々ならぬご尽力のおかげで実現することができました。同窓生にとってこの「旧講堂」は瑞光館ができる前までのことであり、その後は図書館として、またその後は食堂として専ら定時制生徒が利用していたものであり、自分自身で大いに利用されたという方は、役員の中にはあまりいらっしやらないであろうに…。故郷とか母校とはまさにそういうものなのだと実感しています。

私たち自身が縁あって育った環境は、関連性の程度を問わず全てが愛おしく大切にしたいものであり、その思いを持続させていくことによって、同郷の人間の互いの結びつきを強化し、結果として私たちが想像する以上に私たち自身には深い繋がりがあったことを自覚させてくれるものであると。

本校を巣立っていく若者には、瑞陵高校のDNAを大切に続けることで多くの人々との結びつきを強化し、結果として自分自身が大勢の人と深く繋がっていることを実感してほしいと願っています。それは、誰もが自分が知らないうちに背負っている肉体的あるいは社会経済的な制限を乗り越えて、たくましく自己実現するという理想の生き方と同義であると考えます。

それでは、瑞陵高校のDNAとは何か。校長としての任期三年間の私なりの結論を言えば、瑞陵高校のDNAとは「他者との共感に基づく優しさ」です。他者との共感、ただ待っているだけでは得られず一歩踏み出す勇気が必要で、優しさを発揮するには、自分を素直に受け入れることが前提です。

<p>司法書士グリーンフォーラム</p> <p>司法書士 林 勝 博 (瑞19回)</p> <p>〒458-0036 名古屋市緑区六田一丁目200番地 TEL.052-624-1885 FAX.052-621-1384</p>	<p>機械要素部品の総合商社 株式会社 光商会</p> <p>取締役社長 吉 田 明 弘 (瑞13回)</p> <p>〒456-0052 名古屋市熱田区二番一丁目14-8 TEL.052-682-6211 FAX.052-671-0135 http://www.hkr-s.co.jp</p>	<p>佐久間医院</p> <p>院 長 佐久間 修 三 (瑞19回)</p> <p>〒464-0811 名古屋市千種区朝岡町2-1 TEL/FAX.052-781-0430</p>
--	--	---

関東瑞陵会 第11回総会報告

瑞陵高校応援団復活!?

関東瑞陵会副会長 荒木郷兵 (瑞16回)

去る4月12日(土)関東瑞陵会の第11回総会が東京のアルカディア市ヶ谷で開催されました。参加者は155名で、過去最高でした。

関東瑞陵会は平成9年(1997年)に発足し、第5回までは毎年総会を開催、第6回からは隔年で開催しています(発足の経緯については、これまでの会報を参照ください)。ここでは今回の主な点に絞って紹介します。

今回の特徴は、テーマに「瑞陵魂」を掲げたことです。その具体化の一つは意外と知られていない杉原千畝先輩の偉業を伝えようと、場内の掲示板にいろいろな資料を張り、出版された本を並べ、長屋勝博(瑞22回)さんが紹介しました。

もう一つは、応援歌、逍遙歌を知らない年代があることがわかり、校歌とともに大合唱しました。しかもリーダーの安島政実(瑞18回)さん、稲葉賢治(瑞19回)さんは学ランに着かえ、白手袋・白ハチマキというまさに応援団復活です。古橋成彦(瑞29回)さんの太鼓のリズムに合わせ、手拍子、エールもひと通り行いました。これはもう大変な盛り上がりとなり、心配された太鼓



の音よりも参加者の合唱の声がはるかに大音量でひびいていました(動画配信中「瑞陵魂」で検索ください)。

瑞陵会の中村利雄会長からは、瑞陵高校をめぐる最近の話がありました。とくに市内最古の講堂である感喜堂(旧講堂、図書館)の保存について、卒業生のいっそうの協力へのお願いがありました。

今回の総会には、27回卒、28回卒、29回卒などの比較的若手の新しい方が多く参加されました。これはさらに発展していくことが期待できます。企画運営にあたった佐藤正徳(瑞29回)さん、平進太郎(瑞29回)さん他の総務幹事のみなさんが「たより」を含め、新しいアイデアで引っ張っていくことに頼もしさを感じました。

次回総会は、平成28年4月9日に開催予定です。卒業生は、関東地区以外の方もだれでも参加できます。幹事一同お待ちしております。

感喜堂(旧講堂)の耐震改修に至る経過

昨年6月の知事・市長の訪問以来、時々ニュースの種となった感喜堂(旧講堂)は本年度耐震改修工事が行われることになった。予定よりは遅れたものの、7月10日には工事担当の業者が発表され、8月から本格的工事が始まる。それに先立ち、学校では7月18日の終業式の午後感喜堂内部を開放し、普段は感喜堂に入ることのない全日制の生徒が見学する機会を持った。

耐震改修工事と化粧直しの済んだ感喜堂が姿を現すのは来年の3月。どんな姿になるかは非常に楽しみである。

瑞陵会は耐震補強工事の済んだ後、創立110周年記念事業の一環として、北側の一部をスライディングウォールで仕切り、生徒用の学習室を整備するとともに、空調施設を導入し300名を収容するホールとしての機能も持たせることを考えている。

今回は耐震改修に至る過程を整理してみた。(一部「会報2013」と重複)

平成24年2月14日

感喜堂に係る名古屋市歴史的建造物認定の検討についての報告(県教育委員会財務施設課)

- 感喜堂を名古屋市都市景観条例に規定する「認定地域建造物資産」として認定したい旨の依頼があったが「当面保留とし認定申請はしない。」

平成24年10月23日

感喜堂に係る名古屋市歴史的建造物の対応について吉沢校長・中嶋事務長と財務施設課との話し合い。

- 学校：毎日利用する建物であり、今後の方向性をうかがいたい。校長としては安全面から「改築」を望む。
- 財務施設課：余剰建物なので取壊しが基本であるが、知事のマニフェストにより現在保留になっている。同窓会の意見も確認してほしい。

平成25年1月11日

津島高校旧講堂の改修についての調査報告(瑞陵会事務局)

平成25年2月26日

瀬口・佐合氏視察

平成25年5月1日

瑞陵会から教育長宛「感喜堂の存続及び改修の陳情書」提出

平成25年5月2日

県教育委員会から「今後の進め方について」：基本調査(耐震度、コア抜き、はつり)の結果によって耐震改修可能ならば耐震改修設計を行うが、不可能であれば建替える。

この後、感喜堂の使用頻度、給食設備の調査が行われた。

平成25年6月9日(日)読売新聞(全国版)

「歴史的校舎守りたい」で愛知瑞陵の旧講堂が紹介された。

平成25年6月13日

感喜堂の知事視察(11時30分~12時)

- 大村知事、管理部長、財務施設課長、河村市長、まちづくり推進室長等12名

<p>エール国際特許事務所</p> <p>弁理士 間瀬 銈一郎 代表パートナー</p> <p>(瑞11回)</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-7 丸の内OSビル4F TEL.052-959-4520 FAX.052-959-4522</p>	<p>名古屋フランスcorp株式会社</p> <p>代表取締役 服部 幸三 会長</p> <p>(瑞14回)</p> <p>〒470-0112 愛知県日進市藤枝町西外面16 TEL.0561-73-4601 FAX.0561-75-4545 http://www.nagoyafrance.co.jp</p>	<p>アフラ 栗田敬八税理士事務所</p> <p>所長 栗田 敬八</p> <p>(瑞19回)</p> <p>〒454-0911 名古屋市中川区野田1-193 TEL.052-351-0251 FAX.052-352-8268</p>
---	---	--

- ・スケジュール
 - 6月 「コンクリート構造躯体状況調査」
 - 9月 調査結果に基づき、補強工事もしくは補強外工事の検討
 - 12月 補強外工事の場合の工法・工事費の検討を行い方針を決定する
 - ・当日取材マスコミ
 - 東海テレビ、NHKテレビ、CBCテレビ、中京テレビ、テレビ愛知、メーテレ、朝日新聞、読売新聞、中日新聞（順不同）
- 平成25年7月23日
名古屋市議視察（9時30分～10時30分）
・減税日本名古屋の四名の議員、対応は財務施設課主幹、課長補佐、校長
- 平成25年11月
校地（工食用利用可能地）・給食機器の調査
- 平成26年1月
厨房施設改修案作成（長谷川栄養士を中心に作成、健康学習課に提出）
- 平成26年1月24日
CBCテレビ放送（イッポウ）
・「県は旧講堂『感喜堂』の耐震補強をし、保存する方針を固めた」と報道

- 平成26年2月6日
名古屋大学大学院環境学研究科 西澤泰彦准教授の視察（名古屋歴史的建造物保存活用推進会議委員）
- 平成26年2月26日
財務施設課と岡本設計事務所への耐震改修に伴う要望提出
- 平成26年3月17日
瑞陵会役員会への連絡
・今年度3月末までに耐震補強工事の設計終了見込み
・家庭科棟耐震補強工事に併せて、感喜堂の耐震補強工事を行う
・工事期間は8ヶ月程度必要なので8月には着工する見込み。
・壁面は原則現状で保存。壁面の150cm内側に14本の柱を基礎から増設しその柱を利用して側面の補強を行う。
・屋根・天井・床は全て撤去して工事を行う。
- 平成26年4月6日読売新聞「瑞陵高旧講堂保存へ」県の耐震改修工事の実施を報道
- 平成26年6月4日（水）メーテレ「注目ニュース」
「名古屋市内最古の講堂 保存へ」と報道された。
- 平成26年7月10日入札結果公表
・瑞陵高校食堂等改修建築工事…株式会社木津工務店
・瑞陵高校食堂等改修電気工事…鯉電気工業株式会社
・瑞陵高校食堂等改修管工事…宝工業株式会社
- 平成26年7月28日着工予定

モダンルネサンスを加味した大正建築 県立瑞陵高校感喜堂の魅力

名古屋市立大学名誉教授 瀬口哲夫

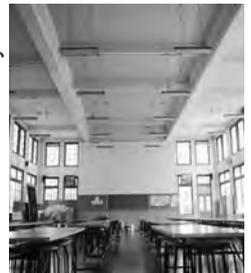
1924(大正13)年に完成した愛知県立瑞陵高校感喜堂(旧講堂)は、今年で90周年を迎える。生まれた時は、愛知県商業学校の講堂として造られたが、戦後の教育改革により、1948(昭和23)年、新制の愛知県立瑞陵高校の講堂^(注1)となる。以来、講堂として、使われたが、新しい講堂が造られたことから、1964(昭和39)年11月、図書館として再出発した。さらに、図書室が整備されたことから、1979(昭和54)年3月31日から、定時制給食室となり、感喜堂と命名され、現在に至っている。感喜堂は、瑞陵高校にとって、その時々の教育上の要請に応えながら生き続けてきた歴史的な建物である。



棧瓦葺き、寄棟造、平屋建ての瑞陵高校感喜堂は、梁間15.6m、桁行27.4m、面積約430㎡とこじんまりしたものであるが、名古屋市内にある学校の講堂としては最古のものである。講堂として、大勢の生徒が集まる場所のため、天井は5.9mと高く、2階の高さの位置に、大きな高窓が設けられており、明るい講堂内部となっている。講堂北側中央には窓がなく、壁面となっており、ここが講堂の正面で、反対の南側に来客などの玄関口がある。

天井の桁行方向に2本の大きな梁^(注2)を架け、その間の天井をやや高くし、長手方向に板を張り、左右の天井をやや低くして、短手方向に板を張る。このことにより、玄関

入口から正面ステージ^(注3)に向かった方向性を生み出している。また、大きく取った窓の間の縦長の細い壁を柱とみなし、その最上部に2本の横筋を入れ、柱頭飾りとしている。こうしたところに、大正期の講堂のモダンさを読み取ることができる。



1897(明治30)年の旧愛知県第二尋常中学校^(注4)講堂は、棧瓦葺き、寄棟造、平屋建てであるが、構造は木造。大正期の瑞陵高校感喜堂(1924年)と津島高校旧講堂(1923年)は同時期に造られたこともあり、よく似ている。共に、構造は、壁のみが鉄筋コンクリート造で、小屋組は鉄骨トラス造^(注5)。これが昭和前期の講堂となると、滝学園講堂(1933年)のように、鉄骨トラスの小屋組に鉄筋コンクリート造で、2階席(ギャラリー)を設けるものが登場。さらに、東海学園講堂(1931年)や金城学院高校栄光館(1936年)のように、鉄骨鉄筋コンクリート造の3階建てとなり、1階を食堂や図書館に使い、2・3階を吹き抜けのある講堂とするなど、より立体的になる。その意味で、大正期の瑞陵高校 感喜堂は、明治中期と昭和前期の中間に位置する講堂で、その変遷を知る上で要の位置にあることがわかる。

瑞陵高校感喜堂は、愛知県営繕課の設計。その特徴は、「モダンルネサンスを加味した鉄筋コンクリート造」^(注6)とされる。外部に出した柱の下部に、やや膨らみを持たせ、柱基を現わし、柱の頭には、簡略化した線形を施している。これも明治期や昭和前期の講堂にない、モダンルネサンス的意匠といえよう。感喜堂は、こうした装飾により、講堂としての格式を持ちながらも、モダンな明るい講堂となっ

<p>滝山獣医科病院</p> <p>獣医学博士 滝山 昭 (瑞16回)</p> <p>〒458-0835 名古屋市緑区鳴海町上汐田220 TEL.052-621-0179 FAX.052-621-2020</p>	<p>近藤産興株式会社</p> <p>代表取締役 近藤 昌三 (瑞10回)</p> <p>〒457-0822 名古屋市南区浜田町1-10 TEL.052-611-5561(代) FAX.052-611-5826</p>	<p>NC工作機械・工具の総合商社 株式会社 新栄商会</p> <p>代表取締役社長 時津 達也 (瑞44回)</p> <p>〒468-0056 名古屋市白区島田2-516 TEL.052-801-1222(代) FAX.052-803-1321 http://www.e-net-shinei.co.jp</p>
---	--	--

ている。

「歴史的な建物が無い都市は、記憶のない都市である」といわれるように、「歴史的な建物が無い学校は、記憶のない学校」ということができる。その意味でも、大正建築としての感喜堂を是非大切にしたいものである。

注1 県立瑞陵高校の前身の旧制愛知県第五中学校の創立は、1907(明治40)年である。戦後の教育改革により、県立愛知商業学校などと統合され、戦災で被害を受けた第五中学校の木造校舎は使用に耐えなかったことから、隣地の県立愛知商業学校のRC造校舎を使用することになり、移転し、現在に至っている。

注2 構造的なものでなく、梁に見える、装飾的な箱形である。

注3 南側にあった玄関入口と北側にあったと考えられるステージは、改修されており、現在は無い。

注4 現在の愛知県立岡崎高校。旧制愛知県第二尋常中学校講堂は岡崎市針崎町に現存する。

注5 感喜堂の小屋組は、中央に垂直の真東を持つ、キングポ

スト・トラスで、2つの山形鋼(2L-75×76×6)をリベットで合わせ斜材を造り、その隅をガセットプレートでそれぞれ緊結したものとなっている。

注6 当時の愛知県営繕課の担当者は、この当時の県立学校の建物様式について、モダンルネサンスと表現している。

謝辞 愛知県教育委員会財務施設課永墓悟課長補佐、加藤勇一さん、文化財保護室小川芳範課長補佐、佐合広利名古屋市政資料館館長をはじめ、関係者の皆さんに感謝します。

瀬口哲夫氏の略歴

1945年生まれ。名古屋市立大学名誉教授。工学博士。専門はまちづくり、近代建築史。近代建築など歴史的遺産を活かしたまちづくりに積極的にかかわる。現在名古屋市及び岐阜市の歴史的風致維持向上計画協議会会長などを務める。



ドイツ留学の記

チェリスト(名古屋市立菊里高校非常勤講師)野村友紀(瑞53回)

大学を卒業した年の秋、私は楽器とトランク一つをもってドイツのカールスルーエという街に立っていた。この時はまさか、自分がそこに7年半も居る事になるなんて、思いもしなかった。私の留学記を駆け足で紹介したい。

ドイツに留学するためには、大学ではなく、まず師事したい教授を決めなければならない。私はそれまで一度もヨーロッパに行ったことがなく、どの先生に師事したらよいのかも全く分からなかった。そこで私は、面識のない日本人の有名チェリスト達にメールを送り、どのチェリストからも名前の挙がったマーティン・オスターターク教授のいるカールスルーエ音楽大学を受験することにした。ドイツを選んだのも、好きな作曲家にドイツ人が多かったという単純な理由である。この単純さと無謀さがよかったのだろうか。私は幸運にもその先生の生徒になることができた。

入学してみると、私のクラスメイトは年下の天才少女ばかりで、自分の技術の未熟さを痛感する日々が待っていた。さらに、日本でのドイツ語勉強のサボりが響き、ドイツ語も殆ど喋れない。そこで私は、その年下のクラスメイト達と昼ご飯を食べ、夜は練習後にビールを飲みに行き、なるべくたくさん交流することでドイツ語や現地の習慣を覚えていった。ドイツの学校は、日本のように学期末に一斉実技試験で点数をつけて



カールスルーエ音楽大学

他人と比較するという方法はとっていない。大学に入学する年齢も自由、卒業する時期もバラバラ。だから、他人にライバル心を持つというより、自分との戦いなのだ。クラスメイトはとてども仲が良く、情報を交換し



たり、冗談を言って爆笑したり、時には先生への文句を言い合ったり。今考えると、何と幸せな環境だったのだろうか。寝ても起きて、ひたすらチェロに向き合える時間。

そんな私が、自分の住んでいる街のオペラ歌劇場の研修生となったのは、渡独から2年後のこと。たまたまその歌劇場(ドイツには街ごとに地元の歌劇場がある)が、半年間の研修生を募集していた。それがきっかけで、私の音楽観はガラッと変わった。

日本に居る時は、オペラには全く興味が無かった。オペラでは、舞台上で華やかに歌手が歌い、「楽器弾きはオーケストラピットという半地下に潜るただの伴奏役でしょ」と思っていた。

しかし、初めてオペラを弾いたその日から、オーケストラだけの交響曲や、ソロには無い世界に、私は魅了された。場面の変化、主人公の心の変化を私たちが音で表すのだ。その音で、その場の時代や空気さえ変えてしまう。歌手と私たちの息がピッタリあった瞬間の幸福感。それ以来、私はオペラのとりこになってしまった。毎日違うオペラを弾ける事が、楽しくて仕方がなかった。

私の楽器を弾く姿勢も変わった。専門的な話になるが、楽器を弾くという事は、ただ楽器が鳴るのではなく、歌手と一緒に弾き手の呼吸や姿勢がとても大事で、弾く人間と楽器が共鳴して、身体から音が出るのである。それが自然に出来るようになった。

研修期間が終わった後は、契約団員としてその劇場オーケストラに留まり、その後隣の歌劇場で帰国3日前まで働いた。この経験は、私の人生の宝物である。

ドイツでの生活が7年を過ぎた頃、ふと今後の人生を考

<p>生命保険・損害保険代理業 株式会社エイチ・ケイ・コーポレーション</p> <p>代表取締役社長 加藤 秀雄 (瑞25回)</p> <p>〒352-0006 埼玉県新座市新座1-13-19 TEL.048-485-1483 FAX.048-479-7701 Email katochan@df6.so-net.ne.jp</p>	<p>てらかど動物病院</p> <p>院長 獣医師 寺門 俊博 (瑞45回)</p> <p>〒465-0087 名古屋市名東区名東本通5-19 TEL.052-703-1101 FAX.052-703-1189 http://www.terakado-ah.com</p>	<p>太子歯科医院</p> <p>院長 小森 敦夫 (瑞33回)</p> <p>〒458-0823 名古屋市緑区太子2-190 TEL.052-623-1184 FAX.052-623-0799 http://www.taishi-dental.com/</p>
--	--	---

え始めた。そんな折、日本で後進の指導をしないかというお話が舞い込み、今が帰るタイミングなのだと思います、帰国することになった。日本の湿気にはげんなりしつつも、指導する側になって初めて分かることも多く、更に室内楽やソロの機会も多くなり、充実した日々を過ごしている。

ドイツで普通に吸っていた空気、見上げていた高い空、いつのまにか喋れるようになったドイツ語、生活の中に当たり前の様にある音楽、友達、同僚、胃にもたれるドイツ料理、おいしいビール。全てが今の私を作っていると思う。

ドイツという外国から見て分かった日本のよさにも沢山気付くことができた。

ここまで何も言わず応援してくれていた両親には、ただひたすら感謝である。

☆☆☆☆☆

西郷先生経由で「演奏会のポスターに『瑞陵会後援』の文言を入れたのですが…」という相談をうけたことがご縁で、この文章を書いていただきました。今回は都合がつかず交流会での演奏はかないませんでした。演奏会にお出かけいただけると幸いです。(事務局)

五中・瑞陵史発掘

瑞陵と江戸川乱歩¹ (五 1 回)

——乱歩生誕120周年——

三品耕作 (瑞47回)

1. はじめに

「云う迄なく日本が生んだ世界的な探偵小説界の巨人」²である江戸川乱歩は、1907 (明治40) 年4月15日、1期生として瑞陵高校の前身である旧制愛知五中へ入学し、1912年3月17日に五中を卒業している³。1期生の受験生は574名、合格者は100名である⁴。卒業生は66名である⁵。

乱歩の五中での学業成績は、中の上であり、多くは2、30番であったという (1年生の15番が最上位の成績)。乱歩は既に小学5、6年生の頃から友人と少年雑誌を作って遊ぶことをはじめ、五中在学中も断続的に数種の雑誌を刊行している⁶。

2. 乱歩の五中評

「僕の中学校は名古屋に在ったのですが、今のように開けなくて、学校はできたばかりの豚小屋みたいなバラックだし、校庭には名物の大根が植わっていて、われわれはそれを

引き抜いて、地ならしをするのが課業外の課業だった始末で、市中からそこへ通学するには、一里くらいも畑のあぜ道を雨の日なんかはドロドロになって歩かねばならなかった。⁷

この乱歩の記述は、音も似ているため第五中学は「大根中学」とからかわれたという瑞陵史のエピソード⁸と軌を一にするものである。もっとも、西原吉治郎⁹が設計を手がけた五中の校舎 (竣工1911年) は、同氏が設計を手がけた旧制八高 (竣工1909年) 及び旧制愛知一中 (竣工1909年) と同じく、名古屋における当時の建築物としては最高級のものであった。したがって、この「豚小屋みたいなバラック」の校舎とは、正式な五中校舎が建設される前の仮校舎を指していると思われる。

3. 瑞陵初の自転車通学?

乱歩は「私は名古屋市の中学期時代に八キロの道を自転車にかよった」と記している¹⁰。1907年当時、自転車は現在の30万円~百数十万円相当¹¹と極めて高価であり、一般市民には普及していなかった¹²。当時の名古屋市の人口は約30万人である¹³のに対し、1905年の名古屋市内の自転車は1713台である¹⁴。五中卒業の年に父親の事業が倒産するまでは裕福な生活をしていた乱歩だからこそ、自転車通学が可能だった。そこで、五中1期生である乱歩が、五中 (瑞陵) の自転車通学者第1号と思われる。

1 本名は平井太郎、1894年10月21日生~1965年7月28日没。来年は没後50年である。
 2 「学術と芸術」島洋之助編『百萬・名古屋 復刻版』(樹林舎、2012) 171頁。
 3 瑞陵会『五中-瑞陵百周年記念誌』(中部日本教育文化会、2008年) 172頁、354頁。
 4 Web版『五中-瑞陵60周年記念誌』(以下、「web版60周年記念誌」という) (<http://www.bekkoame.ne.jp/i/zuiryokai/60kinen1.htm>)。
 5 『五中-瑞陵百周年記念誌』14頁、354頁。
 6 それらの雑誌、五中時代の授業ノート、日記、五中の学業成績についての後年の直筆コメント等は、江戸川乱歩『江戸川乱歩推理文庫特別補巻 貼雑年譜』(講談社、1989年) 14~18頁に掲載されている (以下、『貼雑年譜』という)。「貼雑年譜」の解説書としては、乱歩の息子で社会学者の平井隆太郎『乱歩の軌跡 父の貼雑帳から』(東京創元社、2008年) がある (以下、『乱歩の軌跡』という)。また、『乱歩と名古屋』についての論文は、五中の卒業生 (五39回) で郷土史家である斉藤亮「名古屋の探偵小説家 (二) 江戸川乱歩」郷土文化45巻3号53頁 (名古屋郷土文化会、1991年) が嚆矢である。さらに、入手しやすい本としては、小松史生子『乱歩と名古屋』(風媒社、2007年) がある。今回の執筆の過程で、斉藤・小松両氏、落合教幸氏 (立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員) 及び向田論氏 (名古屋市立鶴舞中央図書館司書) に資料についてアドバイスを頂く機会があった。また、落合氏には旧乱歩邸を案内して頂いた。皆さんに感謝申し上げる。なお、小松氏によれば、先日、『江戸川乱歩の迷宮世界 生誕120周年』(洋泉社MOOK、2014年) が出版されたという (私は現時点で未読)。
 7 江戸川乱歩『乱歩打明け話』『江戸川乱歩全集7』(講談社、1969年) 373頁。
 8 「web版60周年記念誌」<“大根中学”の異名>の項目参照。
 9 瀬口哲夫『官庁建築家・愛知県宮籍課の人々』(C&D出版、2006年) 97頁。
 10 江戸川乱歩『サイクルおしゃれ時代』『江戸川乱歩推理文庫60うつし世は夢』(講談社、1987年) 279頁 (以下、『推理文庫60』という)。なお、当時の道路状況を考えても、この「八キロ」は誇張であり、乱歩の自宅 (中区栄3丁目3番地付近。現在の丸栄百貨店裏の旧名古屋証券取引所界隈) から五中までは直線で測ると約4キロである。乱歩の息子である平井隆太郎氏も、「自宅から一里くらい」と記している (『乱歩の軌跡』18頁)。なお、乱歩の自転車通学については当初、前掲の斉藤論文に記述があるものの、一次文献が私には不明だった。斉藤氏も忘れたとのこと。そこで、森重統氏 (瑞陵会事務局) の紹介で今年5月に乱歩の孫である平井憲太郎氏に直接質問する機会を私は頂いたが、憲太郎氏も自転車通学の有無はご存知ではなかった。結局、落合氏に教えて頂いた65冊の文庫の中から自力で探し当てた。
 11 名古屋新聞 (現在の中日新聞) 朝刊 (明治40年10月8日付け) 4頁最終版の新聞広告「梅村自転車」参照 (この広告の発見は向田氏のご尽力による)。この広告には「ローマン号自転車一台通常110円、特別割引85円」と明記があり、ローマン号自転車とはカナダのトロントからの輸入車との説明がある。消費者物価指数3000を掛けると、当時の自転車の価格は現在の30万円相当となる。もっとも、当時の巡査の初任給は12円、大工1日当は1円である。したがって、自転車の価格は現在の30万円~百数十万円相当と推測できる。
 12 「web版60周年記念誌」では「自転車はまだ高嶺の花、当時鳴海じゅうで二、三台しかない状況」である。
 13 名古屋市の人口は、29万8918人 (1905年12月31日現在)、30万7624人 (1906年12月31日現在)、35万4733人 (1907年12月31日現在) である (「人口の累年比較」名古屋市長務局行政部統計課『名古屋百年の年輪』(名古屋市、1989年) 20頁)。なお、1906年と1907年の間の人口急増は愛知郡の一部の編入による。
 14 「1905年名古屋市内の自転車台数」自転車産業振興協会『自転車の一世紀』(自転車産業振興協会、1973年) 503頁。ちなみに、1901年の名古屋市内の自転車は941台であり、4年間で約1.8倍に増加している。

<p>プレス金型と製造設備専用機械の設計製作など ムツミ工業株式会社 代表取締役 近藤 哲典 (瑞22回) 〒462-0866 名古屋市北区瑞璃光町5-1 TEL.052-913-2111(代) FAX.052-913-2100 http://mutsumi-industry.co.jp</p>	<p>つばめ自動車株式会社 代表取締役 社長 天野 清美 (瑞17回) 〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目21番17号 TEL.052-201-8031(代) FAX.052-201-8036 http://www.tsubame-taxi.or.jp</p>	<p>株式会社 アオキスーパー 取締役 青木 偉晃 相談役 相談 役 (瑞17回) 〒453-0054 名古屋市中村区鳥居西通一丁目1番地(本社) TEL.052-414-3600 FAX.052-414-3609 http://www.aokisuper.co.jp</p>
---	---	--

今日、瑞陵高校の自転車通学者の割合は、1年生が21.7%、2年生が36.6%、3年生が38.7%と学年が上がるにつれて上昇する傾向にあり、全体としては32.3%である(2014年6月現在、瑞陵高校生活指導部)。残りの大半の生徒は、地下鉄を利用して通学していると思われる(瑞陵高校は、市内では、最寄りの地下鉄の駅からの距離が最も短い県立高校である(駅から徒歩5分))。

4. 瑞陵初の停学処分?

乱歩は中学3年生の1909年9月から、五中構内にあった寄宿舎に入っている¹⁵。医師が、乱歩は心臓が弱いため遠距離の通学ではなく寄宿舎に入ることを勧めたからである¹⁶。そして、満州渡航を企てて退学届を偽造・提出し寄宿舎を脱走して大須の小旅館に2、3日潜んでいた乱歩が停学処分となったのは中学4年生の1910年である¹⁷。1年も経たないうちに退寮となった。

「中学時代は病身でよく学校を休んだので、余り優秀な学生ではなかった。自慢するような思い出話もない。記憶しているのは悪いことばかりで、そのうちでも最大の汚点は、中学4年生の時に停学を命ぜられ、一ヶ月余り昔の閉門同様に自宅に蟄居したことであろう。その頃は寄宿舎に入っていたのだが、同宿の悪友二人と申し合せ、満州に渡って牧畜をやるうと、寄宿舎を逃亡したところ、まだ汽車にも乗らないうちに捕まってしまう、処罰されたのである。その時の首謀者の不良少年は、今では東京某大学の物理教授になっている。」¹⁸

ちなみに、Web版「五中-瑞陵60周年記念誌」によれば、<寄宿舎のこと>の項に「(寄宿舎は)停学処分を受けた生徒の保護監察的な場所としてここが利用されたこともあったようだ。江戸川乱歩、当時の平井太郎(一回卒)は在校当時から墓場をうろついたり、探偵小説を書いて小学生に売りつけていたというが、学校を理由なく三日間休んで停学一号の処分を受け、あとでしばらくの間寄宿舎へ入れられていたという」との記述がある。乱歩の記述と齟齬があるが、乱歩が停学処分を受けたことは間違いないだろう。

5. 自製の雑誌を小学生に販売¹⁹

中学3年生のとき²⁰、乱歩と友人二人(級友の本荘実(五1回。後の開業医、医学博士)、明倫中学の丹下某)の三人合作で探偵小説を創作しそれを印刷して小学生に売ることが、

乱歩が提案。実際に各小学校の退校時間を見はからって門前に待っていて小学生達に売った。その時、乱歩は、その広告を自分で書いて、糊の皿を片手に持って、電柱や小学校の壁へ処かまわず貼った。当時は現在のように街にポスターを貼るようなことはなかったため、巡査に叱られるはしないかと本荘氏はハラハラしたという。この電柱のビラ貼りには、乱歩の弟も駆り出された。

乱歩の事業家肌、アイディアマン的性格が顔を出したエピソードである。

6. 五中同級生との初恋²¹

男子校の五中では当時、同級生同士のプラトニックな同性愛が流行っており、「附文(つけぶみ)が盛んだった。乱歩自身、数え15歳の時、「相当有名な美少年」である五中の同級生と両想いの「プラトニックな恋」を体験した。乱歩の初恋である。

「当時僕は、内気娘の恋のように、昼となく夜となく、ただ彼のことがばかり思いつめていた。」「彼に逢えば、堅くなって口が利けない。一緒に散歩するようなことがあると、ちょっと二人のからだがふれ合ってもゾックと神経にこたえる。手を握り合ったりすれば、熱が出てからだが震え出す始末です。それでやっぱり手が握りたい。こちらから握るよりも、先方から握ってほしい。」

しかし、「ラブレターは盛んに書」くものの、ろくに口も利けず手を握るだけの初恋は長続きせず、自然消滅した。間もなく、この同級生は五中を終えないで病気のため夭折したという²²。

なお、近現代日本文学史の専門家によれば、男子校の旧制中学では全国的に同性愛が珍しくなかったとのことである(五中だけが特殊だったわけではない。念のため)。

7. 乱歩の瑞陵人脈と反骨精神

「東京に「東部五中会」というのができて、1回から20回ぐらまでの卒業生が、年に1、2回集まって回顧談をやる。そこで、よく顔を合わせるのは竹内芳衛、谷川徹三、山本三郎の諸君である。²³物理学者アインシュタインらとともに世界連邦政府樹立の提唱者の一人で著名な哲学者である谷川(五2回)の説明は他に譲る。竹内(五1回)は『長寿の科学』(1937年)の著書で我が国の老人病学(認知症)の第一人者である医師²⁴、山本(五2回)は不明である。乱歩は戦後、世界連邦主義を唱えている²⁵ことから、谷川との親交が

15 「江戸川乱歩自筆年譜」『乱歩の軌跡』付録3頁。江戸川乱歩「江戸川乱歩年譜」『江戸川乱歩推理文庫65乱歩年譜著作目録集成』(講談社、1987年)10頁。もっとも、寄宿舎の完成は1909年11月である(『五中-瑞陵百周年記念誌』354頁)ため、同年9月に寄宿舎に入ったという乱歩の年譜とは齟齬がある(但し、仮寄宿舎は既に存在した)。なお、寄宿舎は1923年に廃止されている(『五中-瑞陵百周年記念誌』356頁)。

16 『貼雑年譜』18頁。

17 前掲の「江戸川乱歩自筆年譜」では、寄宿舎生活が同年6月で終了しているため、停学処分も同時期であると推測できる。

18 江戸川乱歩「準名古屋人」『推理文庫60』78頁。なお、乱歩は別の新聞記事では、停学期間は「5日間」と回答している(名古屋毎日新聞1934(昭和6)年5月4日付け「停学食らった頃 支那密航を企てた五中時代」『貼雑年譜』18頁)。乱歩は「この記事は無論私の語った通りではない」と注意書きをしているから、「準名古屋人」の内容の方が正しいのかもしれない。なお、乱歩以外の下級生二人は退学になったとこの記事にある。

19 『貼雑年譜』17頁。『乱歩の軌跡』24頁。このエピソードの出典は、本荘実の回想(昭和13年版の五中会報)である。また、別の機会には、乱歩は、後の東北大学教授で「日本家族法学の父」と称される小学生時代の中川善之助氏らと雑誌を作成している。雑誌作成グループの総師が乱歩であり、中川氏はその手足として働いたという(中川善之助「太郎さんのこと」『宝石』17巻1号(1962年1月号)133頁)。五中時代の乱歩は、学校の内外を問わず、後に日本を代表する知識人となる人物と交流をしていたのである。

20 『乱歩の軌跡』36頁。

21 「乱歩打明け話」『江戸川乱歩全集7』376頁。五中で同性愛が盛んであったことは、谷川徹三「中学時代の江戸川乱歩」『宝石』17巻1号(1962年1月号)135頁も参照。

22 美少年崇拜は乱歩の小説の特徴の一つとされている。濹澤龍彦は「あの有名な探偵明智小五郎の助手小林少年、作者の言葉によれば「いつも13、4歳でリングのような頬をしていて、少しも年をとらない」小林少年が、この作者の美少年憧憬のひそかな形象化であるということも、私たちはここで認識しておく必要がある」と記している(濹澤龍彦「江戸川乱歩について」中島河太郎編『江戸川乱歩 評論と研究』(講談社、1979年)138頁)。実際、創作の年月が経つにつれて作中で明智は歳を取っていくのに対し、この小林少年は永遠に「少年」なのである。しかも、その容貌を活かして少女に変装するほどの美少年として小林少年は描写されている。そして、小林少年の年齢と乱歩の初恋の年齢が重なっていることが私には気になる。この小林少年のモデルこそ、乱歩の初恋相手で夭折した五中の同級生ではないか。ダンテが24歳の若さで夭折したベアトリーチェを『神曲』の中でその夭折した歳のまま生かし続け淑女崇拜をしたように、乱歩も夭折した同級生を作中で描き美少年崇拜をしていたのではないだろうか。乱歩の美少年崇拜の原点が五中在学中にあったかもしれないと思うと興味深い。

23 「準名古屋人」『推理文庫60』77頁。

<p>瑞陵会会長</p> <p>中村利雄</p> <p>(瑞17回)</p> <p>日本商工会議所・東京商工会議所専務理事</p> <p>〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2</p>	<p>施設管理支援・情報管理支援・文化財事業</p> <p>ナカシャクリエイティブ株式会社</p> <p>代表取締役社長 山口寛</p> <p>(瑞37回)</p> <p>〒468-8533 名古屋市中天白区井の森町205</p> <p>TEL.052-895-1131 FAX.052-895-1844</p> <p>http://www.nakashaco.jp</p>	<p>原稿募集のご案内</p> <p>編集委員会では、『五中・瑞陵史発掘』シリーズの原稿を求めています。事件、出来事、卒業生の活躍、学校行事、生徒会活動、クラブ活動などについて書いていただける方、資料を提供していただける方はふるってご寄稿ください。また、推薦していただける方があれば、その情報も編集委員会にお知らせください。</p> <p>編集責任者：浜島昭二(瑞19回)</p> <p>shoji.hamajima@gmail.com</p>
--	---	---

あったと思われる²⁶。

また、1935（昭和10）年の京浜五中会における出席者31名の集合写真では、最前列の乱歩の3人隣に、「日本のシンドラ」と評される杉原千畝（五6回）が写っている²⁷。乱歩が反戦的小説「芋虫」²⁸を発表したのが治安維持法による大検挙（3・15事件）があった翌年で世界経済恐慌が開始した1929年、警視庁検閲課から「芋虫」の全篇削除の処分を受けたのが戦時体制が強まった1939年3月31日²⁹、全作品が絶版にされ、事実上、全作品が出版禁止にされたのが太平洋戦争が開始した1941年である。一方、杉原が外務省の命令に背きビザを発給し、6000人のユダヤ人の命を救ったあの偉業が1940年である。乱歩と杉原の反骨精神には何らかの因果性・共通性があるのかもしれない³⁰。

8. おわりに

「津市も名張町も、故郷という感じが乏しく、かえって、幼年時代から中学卒業まで住んでいた名古屋の方が、親しみがあり」³¹、「名古屋の方が故郷みたいなものである」³²と乱歩は記している。乱歩の本籍地は乱歩が一度も住んだこともない津市、また、乱歩の出生地で出生から「2年ほど住んだ」³³のが名張町（現名張市）である。五中卒業まで15年間住んだ名古屋に乱歩が親しみを持ったというのは、われら同窓生・名古屋人にとって嬉しい記述ではないだろうか。しかし、乱歩の出生地が名張であることは有名であるのに比べ、乱歩が青春期を過ごした場所が名古屋であることはあまり知られていない。残念に思うのは私だけであろうか。

《瑞陵と江戸川乱歩の歩み》

1907（明治40）年 旧制五中創立。1期生として乱歩、入学。

1908（明治41）年 旧制八高設置のため、校地移転（瑞穂区瑞穂町山の畑→同区高田町）。
乱歩、五中同級生とプラトニックな初恋。
1909（明治42）年 乱歩、自家製の雑誌を小学生に販売。
乱歩、9月に寄宿舎に入る。
1910（明治43）年 乱歩、満州渡航企て寄宿舎脱走し1ヶ月（5日説も）の停学処分。
11月、皇太子（後の大正天皇）が五中を訪問（乱歩は言及せず）。
1911（明治44）年 五中校舎竣工。
1912（明治45）年 第1回卒業式（生徒総代祝辞は谷川徹三³⁴）。
乱歩、卒業。
.....
1937（昭和12）年 五中創立30周年祝賀会。乱歩、記念講演「探偵小説漫談」³⁵。谷川も。
1947（昭和22）年 五中創立40周年祝賀会。乱歩、記念講演³⁶。岡部金治郎も。
乱歩原作の映画「パレットナイフの殺人」、祝賀会で上演。
1948（昭和23）年 新制瑞陵高校発足。校地移転（同区高田町→同区北原町）
1957（昭和32）年 瑞陵創立50周年祝賀会は挙行されず。
1965（昭和40）年 乱歩、死去（70歳）。
.....
1967（昭和42）年 瑞陵創立60周年記念式典。谷川、記念講演³⁷。

24 『貼雑年譜』17頁。五中在学中に美少年の乱歩を竹内芳衛氏が追っかけて何とかなしたという話は、在学時に相当みんなに知られていたという（谷川徹三「中学時代の江戸川乱歩」『宝石』17巻1号（1962年1月号）135頁）。なお、医学博士となつた竹内氏は、後に「竹内大真」というペンネームで数多くの執筆をしている。
25 江戸川乱歩「ユートピア」「平和への道」「空想・科学・世界国家」『推理文庫60』93頁、151頁、168頁。
26 例えば、乱歩と谷川は、五中創立30周年記念式典で記念講演をするため名古屋へ向向いたあと、一緒にラジオ座談会もしている（江戸川乱歩「名古屋・井上良夫・探偵小説」『推理文庫60』17頁）。
27 『五中－瑞陵百周年記念誌』180頁の写真。
28 あらすじは、誤解を恐れずにいえば、日本版チャタレイ夫人の関心が（森番ではなく）四肢、聴覚、言葉を失い、まるで芋虫のような傷痍軍人の夫に向かったために生じたエログロである。しかし、この作品からは、傷痍軍人を英雄として持ち上げる世間の無責任性と、健全な身体を奪う戦争の残酷性に対する告発が読み取れる。発表当初から教箇所伏字があった。
29 中島河太郎「貼雑年譜」について『貼雑年譜』1頁。
30 「芋虫」の執筆について乱歩には反戦主義の意図はなかったという意見がある（例えば、松本清張「江戸川乱歩論」『江戸川乱歩 評論と研究』78頁、中島河太郎「うつつ世は夢」『推理文庫60』281頁）。それらの意見の主な論拠は、「芋虫」の発表直後に沸きこつた左翼文学者らの「芋虫」への賞賛に対し乱歩が冷淡であったことである。しかし、そのことは、同じ反戦主義であっても、その基底思想となりうる自由主義と左翼思想は似て非なる思想であるため、乱歩の反戦主義を否定する根拠にはならないと私は考える（また、別の視点からは、「芋虫」の発表により当局から既にマークされていた乱歩が、その賞賛を公然と受け入れることは困難ではあったとも思える）。
また、戦後の1950年代には、乱歩本人が反戦主義の意図を明確に否定している（江戸川乱歩「乱歩・自作自解 コラージュ」新保博久ら編『謎と魔法の物語』（河出書房新社、1995年）329頁）。しかし、敗戦直後の1950年代当時においてマルクス主義が日本の文学者を席卷し、芸術は政治思想に従属すべきとの風潮があったのに対し、乱歩は、政治と芸術の峻別、すなわち、芸術には独自の価値があるため、作家の政治思想と芸術作品である小説とを峻別すべきとの立場から、「芋虫」の反戦主義の意図を否定したのであり、その文脈を重視すべきである。したがって、乱歩本人が戦後の特定の時期に反戦主義を明確に否定していても、「芋虫」執筆時に反戦主義の意図がなかったことにはならないのである。
さらに、非戦論で知られる「萬朝報」を創刊した黒岩派香の小説を耽読し、早稲田大学在学中には非戦論を根本に日本軍の二個師団増設反対演説をし（『乱歩の軌跡』30頁）、多数の政治家を輩出した早大政治経済学部を論文2番・成績4番で卒業し、「大学卒業の頃、本気で政治家になるつもりであり」（『乱歩の軌跡』132頁）、尾崎行雄翁直系の自由主義者で大政翼賛会に反対した反軍国主義の代議士と知遇を得ており（『追放解除と川崎克先生』『推理文庫60』72頁）、戦前からコスモポリタンの思想を持ち（『乱歩の軌跡』82頁）、戦後には世界連邦主義を唱えた乱歩が戦争に無関心であったとは私には思えない。これに加えて、自由主義の校風である五中瑞陵の輩出した諸先輩（谷川、杉原、本多顕彰、本多秋五、都留重人ら）がいずれも国家主義に対する自由主義者であり、かつ、卒業後も乱歩はこれらの五中の卒業生の交わりに参加しているのである。以上から、五中瑞陵の自由主義の系譜に乱歩は連なる人物であると私は考える。
したがって、傷痍軍人を題材にした「芋虫」に私は乱歩の反戦主義を嗅ぎ取るのである。
31 江戸川乱歩「ふるさと発見記」『江戸川乱歩全集11』（講談社、1970年）371頁。
32 江戸川乱歩「名古屋と探偵小説」『推理文庫60』238頁。
33 「ふるさと発見記」371頁。なお、前注の「江戸川乱歩自筆年譜」によれば、名張に住んだのは生後7ヶ月強であり、その後2年弱を三重県龜山町（現亀山市）で生活し、名古屋市内の暮らしは1897年4月からである。
34 『web版60周年記念誌』＜第一回卒業式＞の項目。
35 『五中－瑞陵百周年記念誌』173頁。『貼雑年譜』349頁。
36 『五中－瑞陵百周年記念誌』38頁。
37 『五中－瑞陵百周年記念誌』53頁。

瑞陵会親睦ゴルフコンペの御報告（6）

瑞陵会親睦委員会ゴルフ幹事 木村 鍾 治（瑞18回）

時下 皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

瑞陵会ゴルフ幹事の木村です。昨年秋から今年春までに行われた親睦会ゴルフコンペの結果等についてご報告申し上げます。

平成25年10月23日、第20回コンペを花の木G・Cにて、また本年5月28日、さなげC・Cにて第21回コンペを実施致しました。参加者は20回コンペが19名（男性17、女性2）、

21回コンペが23名（男性21、女性2）という状況でした。また、参加されている卒業期は13回生から20回生となっています。

私がゴルフ幹事をさせて頂いてから、既に今年で7年目となり13回のコンペを計画実施してまいりました。この報告書も今年で6回目となります。現在会員数は新しく参加する方も増え60名程となっています。しかしながら、参加する卒業期に偏りが生じており、13回生、18回生が主体となっております。このように同窓会の親睦の場を利用して同期生の融和団結を図って頂けるのは幹事として喜ばしいことですが、せっかくの同窓会ですので、幅広い卒業期の方に参加して頂き、先輩と後輩間のコミュニケーションも図つ

て頂ければと念じています。それには先ず瑞陵会本部からの積極的な参加をお願いしたいと思います。本ゴルフコンペの親睦会が現在あるのも、前本部役員の前向きな協力があつたからと言っても過言ではありません。少なくとも名古屋近郊に居られる現本部役員の方々には、お仕事等に差しさわりが無ければ、年に1、2回のことで、ご参加頂ければ幸いです。出来れば本部役員等のお力を得てゴルフコンペに参加する卒業期の範囲をさらに広げて頂ければと期待しております。

なお、昨年の会報報告でも述べましたが瑞陵会本部から、優勝トロフィーを寄贈して頂きました。第20回コンペの優勝者18回生の岩野さんには、優勝トロフィー変換時にお約束通り岩野さんの名前入りのレプリカを優勝記念としてお贈りしました。今回（第21回コンペ）の優勝者20回生の伊藤さんにも次回のコンペまでに準備する予定です。

最後に、イギリスのゴルフ評論家ヘンリー・ロングハーストの言葉を借りれば、「ゴルフの唯一の欠点は、面白すぎることだ」と言っています。ある時期イギリスの軍人達が武芸も忘れてゴルフに熱中し、政府からゴルフ禁止令迄出たとか……？「浪花節だよ人生は」ではありませんが、「ゴルフだよ人生は」と言うことがあります。これについては次回機会がありましたら、この紙面をお借りしお話ししたいと思っております。

試合は新ペリア（ダブルペリア）方式で実施、結果は次の通りです（敬称略）

20回コンペ (H25・10・23)			21回コンペ (H26・5・28)		
	氏名	卒業期		氏名	卒業期
優 勝	岩野 哲郎	18回	優 勝	伊藤 康郎	20回
準優勝	石村 一郎	20回	準優勝	近藤 隆	13回
3 位	坂東 信吾	13回	3 位	加古 純一	13回
5 位	石山 恒明	20回	5 位	柴垣 純平	13回
7 位	滝山 昭	16回	7 位	斉藤 二郎	13回
10 位	伊藤 明	18回	10 位	岩野 哲郎	18回

※第22回コンペは10月中旬岐阜県の「東名古屋カントリークラブ」を計画しています。

幹事連絡先：携帯 090-4850-1392 FAX 052-205-6321

e-mail kimurashouji0601@yahoo.co.jp



第21回瑞陵会親睦ゴルフコンペ参加者

嗚呼青春！我が瑞陵高校サッカー部

寺 田 志 郎 (瑞20回)

2020年オリンピック、パラリンピックが東京で開催されることに決まった。今を去ること50年、昭和39年(1964年)には東京でオリンピックが華々しく開催された。高度経済成長の真ただ中、日本の首都東京は、高層ビルの林立、高速道路・新幹線の整備など瞬間に、近代都市に様替わりを遂げた。

東京オリンピックでは、「東洋の魔女」の異名で脚光を浴びた女子バレーボールや「オニに金棒、小野に鉄棒」と言われた男子体操、ヘーシンクには負けたものの「お家芸の柔道」など多くの競技で金メダルを勝ち取った。ところで、サッカーは当時のオリンピック大会では、プロ選手の出場が厳しく制限されており、二流、三流の大会で、世界各国では関心もあまり高くなく、人気のない競技であった。そんな中で、日本チームは、長沼健監督の下、社会人の八重樫茂生、鎌田光夫、川淵三郎などに混じって、学生であった横山兼三、小城得達、釜本邦茂、杉山隆一などを擁し、南米の強豪アルゼンチンを破ってベスト8入りを果たしたことはあまり知られていない。

さてそこで、我が瑞陵高等学校サッカー部はというと、当時、聞くところによると、大正時代の後半に創部されたそうで、ぼつぼつ100周年を迎える歴史と伝統を誇る運動部である。インターハイこそ出場経験はないものの、私たちが昭和40年(1965年)に入学する直前には、県ベスト6に勝ち上がり、その上位6チームによる総当たりの決勝リーグに進出した記録も残っている。

今でこそ、少年サッカースクールのような選手の育成を目指したクラブ・団体が全国各地で開かれ、子どものころからボールに親しむ環境ができていますが、当時は、中学校にすらサッカー部が存在しているのはごく稀で、ほとんどの部員は、体育の授業以外には初めてサッカーに触れるという状況であった。顧問の教員側も学生時代にサッカーを経験した指導者は10校に1校ぐらいの割合にしかおらず、瑞陵高校でも監督は、杉野則夫(化学の教諭)で、グラウンドでの指導は、もっぱら上級生やOBが当たっていた。

当時の思い出で一番印象深く残っているのは、夏季休業中の「校内合宿」である。体力の出来上がっていない私たちにとって、真夏の炎天下での4泊5日の練習は、まさに地獄そのものであった。合宿の前には「資金カンパ」と言って、部員が手分けをして、地図を片手に先輩の自宅まで出かけて行って、御浄財を頂戴してくるのである。300円とか500円をカンパしていただくのだが、うどんやラーメンが一杯40円程度の時代で、1000円でもいただいた時は大喜びして帰ってきたものだった。瑞穂区豆田町の市橋製作所に愛知県サッカー協会の事務所があって、市橋七雄(回不明、後の名古屋サッカー協会会長で名古屋サッカークラブの創始者)も瑞陵の先輩で、「暑い時にごくろうさん」と言って、カンパのお金と共に冷たい飲み物をいただいたのを覚えている。

さて、その「校内合宿」であるが、1年生の大きな仕事には、練習前のグラウンド整備とボールの空気入れの二つがある。グラウンドにでこぼこがあったり、ゴールラインやゴールエリア、ペナルティーエリアが引いていなかったりすると、シュート練習やフォーメーション練習ができないと言われ、また、ボールの空気の入れ具合が悪かったり、革の綴じ紐の締めが甘かったりすると、ボールを使った練習ができないと言われ、ひたすら体力強化の練習が中心になるわけである。ここで、注目したいのが当時のボールである。おなじみの白と黒のまだらで、バルブ式のボールはまだ普及されておらず、12枚から16枚の革を縫い合わせたボールで、中のチューブに空気をいっぱいに入れた後、口をゴムバンドで止め、それを折りたたんで中に入れ、ニードルという道具を使って、革の綴じ紐で口を締め付けるのである。口にあてがう革がずれていると、ニードルでチューブを刺してしまったり破裂させたり、ヘソがうまく収まらず口がきちんと閉じないと、ヘディングで頭にその部分が当たると強烈な痛みが走ったりするし、また、品質保持のため、縫い目に保革油を指先で念入りに摺り込んだり、今のボールはそのような心配はなく、空気入れや手入れのことだけを考えると、それはそれは大変な作業であったことを思い出さるところである。

私たちのころのサッカーは、今のような組織的なパスサッカーではなく、キックアンドラッシュやW・Mシステ



合宿風景（昭和41年夏、汐路中学グラウンド）

ムによるウイングからのオープン攻撃が主流であった。個々のスキルも3B(Brain Ball control Body balance)の重要性が説かれ、ぼつぼつボールリフティングやボールステッピングなどを練習に取り入れ始めたころであった。チームの実力はというと、それほどの強豪チームというわけではなかったものの、仲間同士仲が良く、チームワークの優れた中堅クラスの実力であったと思っている。インターハイ予選は、県大会で一回戦は祖父江高校に2-0で勝ち、二回戦で、当時新進の中京商業高校（現中京大中京）に0-6で負けたと記憶している。ぼつぼつ、私立高校が力をつけてきたところで、公立高校もお互いにチーム力をアップさせるために頑張ろうと、選手同士が話し合っ、「5校リーグ」（旭丘高、明和高、向陽高、名北高、瑞陵高）なるものを提唱し、ホームアンドアウェー方式の総当たりのリーグ戦が企画され、実施された。結果はあまり覚えていないが、それ程良い戦績ではなかったかと思っている。

日本のサッカー界は、東京オリンピックが終わるや、昭和40年（1965年）全日本のコーチでドイツ人のデッドマー・クラマーの提唱で、古河電工、日立本社、三菱重工、東洋工業、名古屋相互銀行、豊田織機、ヤンマー、八幡製鉄の8つの社会人チームによる「日本サッカーリーグ」が開始された。また、昭和43年（1968年）に開催されたメキシコオリンピックでは、東京オリンピックでの中心選手がそのまま残る中、今なお、さん然と光り輝く「銅メダル」を獲得し、第Ⅰ期サッカーブームに火をつけた。その後、日産自動車、読売クラブ、松下電器、トヨタ自動車などが、

社員である「企業アマ」から「プロ選手」（スペシャルライセンスプレーヤー）がどんどん出現し、平成5年（1993年）「日本プロサッカーリーグ」（Jリーグ）が誕生する運びとなった。Jリーグの誕生により、日本のサッカーは第Ⅱ期のサッカーブームを迎え、飛躍的に普及・発展し、現在では、ヨーロッパを中心に海外チームでプロ選手として活躍している日本人選手が多くいるようになり、私たちの時代には夢の舞台であった「W杯」にも、今回のブラジル大会を含め、5大会連続出場していることはたいへん喜ばしいことである。

ところで、私たちが選歴を過ぎ、数年前から同期生を中心にして、柴田洋治郎（20回生）が音頭をとって、懇親の輪を広げている。在学中、合宿などを通して、厳しくも的確な指導で一番お世話になった、竹原功（15回生）を中心に、広中修・木村鐘治（18回生）、中野守（19回生）の先輩方、同期（20回生）では、世話役の柴田、キャプテンの天野孝幸を始め、青山茂徳・浅田恒穂・伊藤康郎・飯田道義・中村治雅と小生、後輩では、山田治孝・堀田順一・津坂忠成（21回生）などが一年に1～2回集まって、一献を傾けている。そんな時によく話に出るのが、「伝説の人」（怖い先輩）のことである。私たちの世代では、何と言っても「オダキュー」こと小田節二（14回生）、その名前を聞くだけで震え上がったものだった（実際にはたいへん穏やかで、優しい人でしたが…）。合宿を始め、日ごろから、私たちがよく面倒を見ていただいた先輩諸氏は、前出の先輩のほか、水戸紀明・堀内勲（15回生）、小山良實・森俊光（17回生）、木村洋・角誠之（18回生）などの方々である。

私たちが卒業した後は、越山彰（東京教育大卒、現愛知県サッカー協会副会長）始め、多くの優れた指導者によって、県内でも有数なチームとして活躍し、卒業生の中にも太田祐嗣（30回生、現明和高）などの立派な指導者を輩出している。現在でも、正月の1月2日に、瑞陵高グラウンドで「初蹴り会」が催され、多くのOBも参加し、楽しんでいる。現役チームは、前田幸美（時習館高→筑波大卒）という技術的にも理論的にも優秀な指導者に恵まれ、県大会出場常連チームとして活躍しており、OBとしてもたいへんうれしく思っているところで、一層の健闘を大いに期待している。（文中、敬称略）

瑞陵会 会則

（平成26年改正）

- 第1条 本会は瑞陵会と称す。
- 第2条 本会は会員相互の親睦をはかり、併せて母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は愛知県立第五中学校、愛知県熱田中学校、愛知県熱田第二中学校、愛知県実務女学校、愛知県女子商工学校、愛知県貿易商業学校、愛知県立瑞陵高等学校卒業生を会員とし、母校現職員および旧職員を客員とする。但し、中途転校者等かつて在籍した者も希望すれば役員会の承認を得て会員とすることができる。
- 第4条 本会に次の役員および期別幹事を置く。
- (1) 名誉会長 1名 現職学校長
 - (2) 会長 1名
 - (3) 副会長 若干名
 - (4) 常任幹事 若干名
 - (5) 総務 2名 瑞陵高校現職員から選出する。
 - (6) 会計管理 3名 うち1名は瑞陵高校事務職員とする
 - (7) 監査 2名
- 第5条 役員を選出と任期
- (1) 前条の役員は、総会で選出する。
 - (2) 役員任期は2年とする。但し、再選は妨げな

- い。
 - (3) 前項に定める役員の任期の始期は、改選年の定例総会開催の日の属する月の翌々月の初日からとする。
 - (4) 役員が欠けたときには、役員会において選出、補充することができる。その場合は、総会で報告し、承認を得ることとする。
- 第6条 各役員の仕事は次のとおりとする。
- 会長 本会を代表して会務を統括する。
- 副会長 会長を補佐し、会長に事故ある時はこれに代わる。
- 常任幹事 役員会を構成し審議する。
- 総務 事務を管理する。
- 会計管理 会計を管理する。
- 監査 会計を監査する。
- 第7条 名誉顧問および顧問
- (1) 名誉顧問は、歴代会長及び同窓会に顕著な功績のあった方から、総会の議決を経て会長が委嘱する。
 - (2) 顧問は、経済界、学会、法曹界、教育界、スポーツ界など各種分野の著名人で、同窓会を支えていただけの方から、総会の議決を経て会長が委嘱する。
 - (3) 名誉顧問および顧問は、会長の諮問に応じ助言する。

第8条 期別幹事

- (1) 期別幹事は、年次ごとに若干名を置き、各年次の取りまとめ及び本会との連絡調整などの任務を行う。
- (2) 期別幹事は、役員会の推薦を経て会長が委嘱する。
- (3) 期別幹事の任期は2年とする。但し、再任は妨げない。

第9条 本会はその目的達成のため、次の会合および毎年1回交流会を開く。

- (1) 総会 定例総会は毎年1回開催し、臨時総会は役員会で必要と認められた時にこれを開催し、①会則の改正、②役員を選出、③その他必要事項について審議する。
- (2) 役員会 第4条の役員で構成し、①総会に付議する事項、②会務および会計、③専門委員会の承認、その他必要事項を審議し、会務を処理する。

第10条 議決はすべて出席員の過半数によって定められる。

- 第11条(1) 会長は役員会の議決を経て各種専門委員会を置くことができる。(a. 総会実行委員会、b. 親睦委員会、c. 会報委員会、d. その他)
- (2) 専門委員会の委員長は役員から充て、委員は役員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第12条 庶務

- (1) 庶務は若干名を置き、瑞陵高校現職員及び旧職

員のうちから会長が委嘱する。

- (2) 庶務は、本会の事務を処理する。

第13条 本会の経費は次の収入をもってこれに充てる。

- (1) 入会金 3,000円とする。
- (2) 賛助会費 一口5,000円(5年分)以上とする。
- (3) 広告料、交流会費、その他の収入

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第15条 本会の事務局を瑞陵高等学校内に置く。

第16条 会員多数の地には、総会の承認を得て支部を設けることができる。

第17条 本会則は、総会の議決を経なければ改正することはできない。

第18条 本会則に定めない事項は、役員会の審議を経てこれを決定する。

付 則 この改正規定は、平成24年度から施行する。

但し、平成24年度総会の準備、賛助会員の募集、会報の準備など、会長が必要と認める事項は、平成24年1月31日以降、専門委員会準備会を設置し、準備を進めることができる。

平成26年4月1日改正附則

付則1 改正規定は、平成26年4月1日から施行する。

付則2 平成26年3月31日現に役員である者の任期は、第5条(2)の規定にかかわらず、同年の定例総会の属する月の翌月の末日までとする。

平成26・27年度 役員一覧

1. 名誉会長 吉沢雅之(校長)
2. 名誉顧問 鳥居 大(五37)(百周年事業委員会委員長)
高木 修(瑞5)(前会長・弁護士)
3. 顧 問 判治誠吾(瑞12)(大同メタル工業(株)会長)
斉藤二郎(瑞13)(愛知県スキー連盟副会長、
現副会長)
伊神勝彦(瑞15)(中京高校校長・元瑞陵高
校校長)
加藤正躬(瑞17)(元愛知県小中校長会副会
長)
久田宗弘(瑞17)(DCMホールディングス社長)
揖斐敏夫(瑞19)(日本規格協会会長)
錫村明生(瑞20)(名古屋大学医学部教授)
岡本信明(瑞22)(東京海洋大学学長)
4. 会 長 中村利雄(瑞17)(日本商工会議所・東京商
工会議所専務理事)
5. 副 会 長 濱田 堯(瑞15)(豊明市 民生委員・元雁道
郵便局長)
荒木郷兵(瑞16)(関東瑞陵会 副会長)
江副嘉彦(瑞16)
青木偉晃(瑞17)(アオキスーパー(株)相談役)
天野清美(瑞17)(つばめ自動車(株)社長)
一ノ瀬喜之(瑞18)(吉田衡器製作所・名古屋
市消防団連合会長)
浜島昭二(瑞19)(豊橋科学技術大学 名誉
教授)
佐合広利(瑞20)(名古屋市 市政資料館 館長)
6. 常任幹事 武藤正男(瑞定6)
坂東信吾(瑞13)
稲田萬吉(瑞14)
滝山 昭(瑞16)
石橋 畝(瑞17)
片山真紀(瑞17)
水野達郎(瑞17)
木村鍾治(瑞18)(瑞陵会ゴルフ幹事)
木下道子(瑞19)

- 栗田真砂(瑞20)
寺田志郎(瑞20)
濱島誠一郎(瑞20)
森 重統(瑞20)(事務局)
澤田耕一(瑞21)
秋田真希子(瑞21)
木村恵子(瑞21)
柴田達男(瑞21)
神谷彰彦(瑞22)(事務局)
鬼頭 誠(瑞22)
鬼頭恵子(瑞22)
近藤哲典(瑞22)
成田龍一(瑞23)
松尾知之(瑞23)
下岡和美(瑞23)
上杉修平(瑞24)
渡邊正詞(瑞24)
鈴木克彦(瑞24)
朝倉隆司(瑞25)
天鷲操子(瑞25)
松本有子(瑞25)
大路 弘(瑞25)
中根卓郎(瑞25)
岩田 隆(瑞26)
西郷 孝(瑞27)
鈴木英利(瑞27)
早瀬弘親(瑞27)
若松文彦(瑞27)
田中健二(瑞28)
富屋誠一郎(瑞28)
青山和暁(瑞29)
玉山哲郎(瑞30)
佐藤成俊(瑞38)
7. 総 務 牛田 守(全日教頭)
篠原 昇(全日教頭)
 8. 会計管理 福島一雄(事務長)
 9. 監 査 石川治志(定時教頭)
三浦チエ子(瑞5)

瑞 陵 会 報

平成25年度 瑞陵会会計決算書 (補正)

収入済額 8,143,828円 支出済額 5,872,696円
 残額 2,271,132円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘要
繰越金	1,948,995	1,948,995	0	前年度から繰越
繰入金	4,844,000	3,962,500	△881,500	賛助会費会計・積立金会計から繰入
入会金	1,170,000	1,158,000	△12,000	3,000円×386名
参加費	1,500,000	750,000	△750,000	総会参加費
広告収入	400,000	316,640	△83,360	名刺広告収入等
雑収入	5	7,693	7,688	記念誌販売、預金利息等
合計	9,863,000	8,143,828	△1,719,172	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残額	摘要
事務費	1,653,200	325,880	1,327,320	
報償費	550,000	59,620	490,380	表彰費等
報酬費	553,200	1,600	551,600	非常勤職員の報酬
通信費	300,000	75,860	224,140	郵便切手等
需用費	250,000	188,800	61,200	電気料・消耗品費等
会議費	250,000	30,702	219,298	
役員会	150,000	15,980	134,020	会議経費等
委員会	50,000	14,722	35,278	会議経費等
需用費	50,000	0	50,000	消耗品等
事業費	7,586,000	5,516,114	2,069,886	
交流会会場費	2,064,000	1,830,110	233,890	懇親費等
会報費	1,000,000	444,449	555,551	会報等印刷・送付費
学校支援事業	1,322,000	140,190	1,181,810	卒業記念葉書等
支部支援事業	200,000	101,365	98,635	関東瑞陵会支援
拠出金	3,000,000	3,000,000	0	瑞陵会基金拠出金
予備費	373,800	0	373,800	
合計	9,863,000	5,872,696	3,990,304	

平成25年度 瑞陵会積立金会計決算書

収入済額 5,530,477円 支出済額 3,000,000円
 残額 2,530,477円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘要
繰越金	5,529,624	5,529,624	0	前年度から繰越
雑収入	376	853	477	預金利息等
合計	5,530,000	5,530,477	477	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残額	摘要
繰出金	3,000,000	3,000,000	0	瑞陵会会計へ繰出し

平成25年度 瑞陵会賛助会費会計決算書

収入済額 3,968,460円 支出済額 962,500円
 残額 3,005,960円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘要
繰越金	3,375,690	3,375,690	0	
賛助会費	5,000,000	592,770	△4,407,230	70名
雑収入	1,000	0	△1,000	
合計	8,376,690	3,968,460	△4,408,230	

支出の部

項目	予算額	支出済額	差額	摘要
繰出金	1,844,000	962,500	△881,500	賛助会費の1/5を本会計繰入

*平成25年度 瑞陵会ポプラシート事業
 御園座10月・南座12月
 支出済額 498,550円 (準備金残額 668,074円)

平成26年度 瑞陵会会計予算書(案)

収入予算額 7,304,000円 支出予算額 7,304,000円
 差引額 0円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰越金	2,271,132	1,948,995	322,137	前年度から繰越
繰入金	1,962,500	4,844,000	△2,881,500	賛助会費会計から繰入
入会金	1,170,000	1,170,000	0	3,000円×390名
参加費	1,500,000	1,500,000	0	総会参加者(300名)
広告収入	400,000	400,000	0	名刺広告収入等
雑収入	368	5	363	預金利息等
合計	7,304,000	9,863,000	△2,559,000	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
事務費	1,699,000	1,653,200	45,800	
報償費	550,000	550,000	0	表彰費等
報酬費	589,000	553,200	35,800	非常勤職員の報酬
通信費	310,000	300,000	10,000	郵便切手等
需用費	250,000	250,000	0	電気料・消耗品費等
会議費	250,000	250,000	0	
役員会	150,000	150,000	0	会議経費等
委員会	50,000	50,000	0	会議経費等
需用費	50,000	50,000	0	消耗品等
事業費	4,900,000	7,586,000	△2,686,000	
交流会会場費	2,200,000	2,064,000	136,000	総会・懇親費等
会報費	1,000,000	1,000,000	0	会報等印刷・送付費
学校支援事業	1,500,000	1,322,000	178,000	生徒向け学習環境整備
支部支援事業	200,000	200,000	0	瑞陵会支部支援
拠出金	0	3,000,000	△3,000,000	
予備費	455,000	373,800	81,200	
合計	7,304,000	9,863,000	△2,559,000	

平成26年度 瑞陵会積立金会計予算書(案)

収入予算額 2,531,000円 支出予算額 0円
 差引額 2,531,000円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰越金	2,530,477	5,529,624	△2,999,147	前年度から繰越
雑収入	523	376	147	預金利息等
合計	2,531,000	5,530,000	△2,999,000	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰出金	0	3,000,000	△3,000,000	

平成26年度 瑞陵会賛助会費会計予算書(案)

収入予算額 8,006,960円 支出予算額 1,962,500円
 差引額 6,044,460円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰越金	3,005,960	3,375,690	△369,730	前年度から繰越
賛助会費	5,000,000	5,000,000	0	目標1000名
雑収入	1,000	1,000	0	
合計	8,006,960	8,376,690	△369,730	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘要
繰出金	1,962,500	1,844,000	118,500	

*平成26年度 瑞陵会ポプラシート事業(案)
 御園座観劇 (年2回) (準備金残額 668,074円)

瑞陵高校の近況

「一般財団法人瑞陵高校助成基金」について

1 第2回海外学習助成事業「ルーヴル美術館・オルセー美術館と大英博物館見学の旅」

3月21日：セントレア出発→22日：パリ市内研修・オルセー美術館→23日：ルーヴル美術館→24日：ロンドン市内研修→25日：大英博物館→26日：市内研修→27日：ロンドン出発→セントレア着28日

生徒12名参加

2 財団設立一周年記念海外学習助成事業

「イタリア4都市（Roma, Firenze, Venezia, Milano）とフランス（Paris）見学12日間の旅」

7月30日：セントレア出発→7月31・8月1日：ローマ→2・3日：フィレンツェ→4日：ヴェネツィア・ペローナ→5・6日：ミラノ→7・8日：パリ→9日：パリ出発→セントレア着10日

生徒16名参加

3 7月にiPad50台が寄贈された。お礼の式典は7月18日終業式後に行われた。

ポプラシート報告「京都南座の歌舞伎体験」

瑞陵高校職員 梶野玲子（25回生）

経緯

例年、御園座のポプラシートを年2回実施していたが、御園座の改修工事のため、昨年度からは、金山の市民会館で年1回しか出来なくなった。改修には数年かかるそうなので、その間、年1回の歌舞伎鑑賞になってしまう。

浜島事業「そうだ京都大学へ行こう」を数年続けて企画しているが、その際南座を通るときに、生徒に紹介し、いつかここへも連れてきたいと常々思っていた。それで今回の企画を考えた。

浜島先生と、同窓会のポプラシートの係の濱田さんに相談したところ、快く承諾していただいたので、この「浜島事業、ポプラシート合同企画」が実現した。

南座との交渉

一般申込より前に、団体申込をするのだが、安い席が少ないため、かなり強引にお願いして、やっと30名を受け入れてもらった。（ポプラシートのこと、御園座のこと、浜島事業の意義など説明した。）

今年度は、南座体験の感想文など送付して、何とかつないでいけたらと思っている。

募集

教頭先生に、保護者向けのネットに紹介してもらったこともあり、100名の応募があった。30名の定員なので（ポプラシートは50名だが）、倍率が高くなった。

今年度は、どちらかに行けるように御園座と一緒に募集をかけたいが、南座の決定はかなりぎりぎりなので、（南座の受け入れも未定だが）無理かもしれない。

生徒の感想

208R 村上 晴香

17年間生きてきて、人生初の歌舞伎鑑賞が本場の京都で南座、しかもテレビにも出ていて少しはなじみのある“中車”さんや“猿之助”さん、“愛之助”さんの演技をなま

で観られるなんて本当にもったいないくらいだと感じました。一生、中に入ることもできないかもしれないと思ったから、雰囲気や内装など、しっかりと目に焼き付けました。

もともと、お芝居とかを鑑賞することが好きだったから、劇団四季や能、狂言は何度も見たことあったけど、歌舞伎だけはありませんでした。最近、テレビでも歌舞伎の話題がよく取り上げられていたので、本当に観てみたかったところにこのお話があり、運良く当選し、すごく良い経験が出来ました。

「ちいさんばあさん」の一場面で“中車”演じる“伊織”が“右近”演じる“下嶋”をあやまって斬ってしまう場面があったのですが、その時のイヤホンのナレーションで、「今回はもみあった結果、あやまって斬ってしまったが衝動的に斬ってしまうというように、演じる役者さんによって少しずつ変わってくる。」と言っていたのを聞いて、ただ決まっているものを演じるだけでなく、個々の自分らしさというかオリジナリティーも出しながら演技している意味のかな？すごいなあと感じたのをよく覚えています。

祖母が“先代猿之助”さん演じていた「義経千本桜」を観たことがあったらしく、私も観ることが出来て良かったです。

正直なところ、個人的には、夜の部でおこなわれた「口上」が見たかったです。昼の部が始まる前に、今日の演目内容を予習してきた友達に簡単にざっくりとあらすじを聞いたり、「～家！」と呼ぶ人たちについての話を伺ったりしていたので、普通以上に楽しめたと思っています。

イヤホンのナレーションがあったことも大きいですが、内容もしっかりと自分の耳で聞き取れていたことに、自分に対してもびっくりもしました。古典の授業のおかげもあるかなと。

他のお客様を見て、京都で歌舞伎を鑑賞するということの“ぜいたくさ”を改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。本来だったら、部活がある日だったけれど、試合を休んでまで京都に行った甲斐はあったと心から思いました。日本人に生まれて、まあ、能や狂言も素晴らしかったけれども、歌舞伎を見ないのは、損だ！と思っていたし、今回改めてそう思いました。

席も一番上で後ろの席とはいえ、オペラグラスがなくても肉眼でしっかりみえる正面だったので、大大満足でした。もちろんオペラグラス（双眼鏡）も使いましたけど。「義経千本桜」で“猿之助”さんが空中ではける時なんて、眼の前すぎて感動を通り越していました。ご年配の方が素敵な着物を着てくる意味がなんとなくわかりました。それだけの価値のある伝統的なことなのだなと肌で感じるとともに、まだ17歳の自分が観ることは異例なんだなと感じました。

この素晴らしい機会を作ってくくださった方々と、抽選に当たった自分の運に感謝します。



瑞陵進路セミナー（平成25年度）

- 1 進路セミナー
 - ① 6月11日(火) 「国際協力と地域研究」…日本とは違う世界を知る面白さ
安藤和雄先生 (25回生)
京都大学 東南アジア研究所 准教授
 - ② 7月5日(金) 「将来に向けた植物利用テクノロジー」
湯川 泰先生
名古屋市立大学大学院 システム自然科学研究所 教授
 - ③ 7月9日(火) 「裁判員裁判について考えよう」
山田耕司先生 (33回生)
名古屋高等裁判所 裁判官
 - ④ 11月15日(金) 「翻訳の仕事」…言葉を通して科学を伝える
青山聖子先生 サイエンスライター
 - ⑤ 3月14日(金) 「医学への道」
三宅養三先生 (12回生)
愛知医科大学理事長 名古屋大学名誉教授
- 2 キャリアガイダンス講師（卒業生のみ）
(1年生対象 10月23日)
医療関係 小早川雄介先生 (48回生 南生協病院医師)
法律関係 佐藤 成俊先生
(38回生 光が丘法律事務所 弁護士)
食品製造開発関係 服部幸三先生
(14回生 名古屋フランスcorp会長)
教職・公務員関係 目次清和先生
(21回生 元名古屋市立若水中学校校長)

濱島誠一郎奨学事業報告（平成25年度）

濱島誠一郎氏 (20回生) のご厚意により、廣瀬事業の国内事業を受け継ぐ形で平成22年設立されました。

- 1 バス旅行による研修
杉原千畝記念館とイスラエル料理体験 (6月、25名)、幕末の京都に行く (壬生・八木邸等、7月、31名)、正倉院展 (10月、34名)、京都・南座での歌舞伎鑑賞 (12月、30名、見学費用はポプラシートから支払)、いざ、お伊勢参りへ (遷宮についての学習、3月、31名)
京大ツアー (京大博物館と安藤先生のフィールドワーク、3月、40名)
- 2 博物館・美術館での研修
名古屋市科学館プラネタリウム (3月、40名)
- 3 研修会・講習会への援助
サマーサイエンスキャンプ2名、 ウィンターサイエンスキャンプ2名

部活動の活躍（昨年7月～本年7月まで）

- 25年度 全国大会
陸上競技部 全国高校総合体育大会 (男子800m)
棋道部 全国高校総合文化祭 (将棋部門 男子個人)
全国高等学校将棋竜王戦 (男子個人) 準優勝 (2年黒川和樹君)
- 25年度 名古屋市内県立高校体育大会
男子総合 5位 女子総合 優勝
陸上部男子総合優勝 陸上部女子総合優勝 野球部 (硬式) 優勝
サッカー部優勝 卓球部男子3位 剣道部男子3位 剣道部女子3位 弓道部女子団体優勝 水泳部男子総合6位 水泳部女子総合2位 ソフトボール部優勝
- 陸上競技部
・25年度
東海高校総体 男子800m 6位
愛知県陸上競技選手権 女子4×400m R 7位・女子200m 7位・女子5000m W 5位・女子三段跳び7位
愛知県高等学校新人大会 男子400m 2位・男子4×400m R 3位・男子5000m W 6位・男子やり投げ6位・女子三段跳び2位・女子5000m W 3位・女子砲丸投げ3位・女子100m H 5位・女子800m 6位
東海陸上競技選手権 女子200m 7位・女子4×400m R 4位
東海高等学校新人大会 女子5000m W 8位・男子400m 6位・女子砲丸投げ3位
・26年度
県高校総体 女子フィールド2位・女子砲丸投げ2位・女子円盤投げ5位・女子走幅跳2位・女子走高跳5位・男子800m優勝・男子1500m 5位
サッカー部 25年度全国高校サッカー選手権で県大会出場
水泳部 25年度県高校総体 女子50m自由形7位
26年度県高校総体 (陸上部以外)
女子バスケットボール部、ソフトボール部、水泳部、サッカー部が県大会出場、その他、なぎなた競技 (個人の部) 3位
吹奏楽部 25年度大阪国際音楽コンクール 管楽器部門木管Age-H 3位、25年度愛知県アンサンブルコンテスト愛知県大会 打楽器七重奏 金賞
- 棋道部
・25年度
全国高等学校将棋竜王戦愛知県大会 優勝、全国高等学校将棋竜王戦 準優勝、全国高等学校将棋新人大会愛知県大会 3位
・26年度
全国高校総合文化祭愛知県大会 (将棋部門 男子団体) 優勝
- 文芸部 25年度愛知県高等学校文化連盟文芸専門部作品コンクール 短歌部門第2席・散文部門第1席
映画研究部 25年度高校生映画コンクール自由作品部門 奨励賞・督励賞・佳作、25年度8mm映画コンテスト優秀賞
食物料 25年度全国産業教育フェア愛知大会 全国高校生クッキングコンテスト銅賞、26年度スウィッチャーチャンピオン2014佳作
家庭クラブ 25年度全国高校生ホームプロジェクトコンクール優秀賞
- 平成26年度 全国大会 次の部が出場します。
陸上競技部 全国高校総合体育大会 (男子800m、女子砲丸投げ) 7/30～8/3 山梨県
棋道部 全国高校総合文化祭 (将棋部門 男子団体) 7/27・28 茨城県
文芸部 全国高校総合文化祭 (文芸部門) 7/27～7/31 茨城県

大学入試状況 大学合格者延べ数 過年度卒業生も含む (一部の大学のみ掲載)

	26年度入試	25年度入試	24年度入試		26年度入試	25年度入試	24年度入試		26年度入試	25年度入試	24年度入試
北海道大	4	4	1	大阪大	2	4	2	日本大	6	11	5
東北大	1	0	1	奈良女子大	0	2	1	愛知大	26	60	45
筑波大	1	1	5	神戸大	3	0	3	愛知医科大	7	4	11
千葉大	1	1	2	広島大	3	3	1	愛知学院大	23	24	17
東京大	1	1	0	九州大	0	0	1	愛知淑徳大	43	69	35
東京工業大	0	0	1	首都大学東京	0	0	2	金城学院大	20	13	22
東京外国語大	1	0	1	愛知県立大	8	8	9	椛山女学園大	24	25	26
東京海洋大	1	1	0	名古屋市立大	8	15	18	中京大	101	23	69
横浜国大	2	1	2	国公立大学計	143	143	168	豊田工業大	2	6	6
富山大	1	0	3					南山大	187	168	144
金沢大	1	0	4	青山学院大	4	3	5	名古屋外大	22	22	9
信州大	4	7	5	慶応義塾大	0	6	4	名城大	70	95	99
静岡大	5	5	3	早稲田大	5	5	10	藤田保健衛生大	7	5	10
愛知教育大	14	14	9	上智大	5	4	1	京都女子大	4	4	0
名古屋大	19	14	24	明治大	23	20	17	立命館大	78	68	106
名古屋工業大	22	15	13	法政大	7	7	14	同志社大	45	39	37
岐阜大	14	15	10	立教大	8	2	9	関西大	9	18	18
三重大	5	14	14	中央大	20	14	12	関西学院大	11	8	17
京都大	1	2	3	東京理科大	16	18	24	私立大学計	902	920	933

国公立医学部 (名古屋市大、福井大、琉球大、防衛医科大学校)

賛助会費募集

瑞陵会はネットワーク作りと財政再建が最大の課題です。卒業生の入会金だけでは事業の経費がまかなえず、財政の健全化は焦眉の急となっております。

そこで、財政健全化のために昨年から賛助会費を募ることにしました。5年分の年会費と考え賛助会費にご協力下さい。5年間会報を送らせていただきます。会報は瑞陵会ホームページでもご覧頂けますが、あなたの愛校心が瑞陵会の支えです。振り込み用紙の請求は瑞陵高校内瑞陵会事務局までどうぞ。(用紙がなければ、振り込み手数料本会払いでも構いません)

賛助会費 一口 5,000円 (一口以上でお願いします) 郵便振替 (口座番号00880-7-190740) 払込先 瑞陵会
会報発送と名簿整理の都合上 〒・住所、氏名、回生 (卒業年度) をご記入下さい。

賛助会員名簿 平成25年8月～平成26年7月

532 尾崎良康	14 鈴木淳嘉	20 高橋完治	29 佐藤正徳	38 大田安浩
実1 近藤茂子	14 井上興治	21 岡田高明	29 濱島隆之	38 大崎由美
実2 影山美代子	17 日比 均	21 秋田真希子	33 山田恵理子	39 平田桂子
実2 平岡万寿江	17 青木偉晃	22 足立政治	34 中村美子	39 林 瑞絵
2 岩田康子	17 小林澄子	22 松良正志	34 勝山裕康	62 片岡孝介
4 太田 宏	17 岩田茂子	22 加藤文隆	34 小室悦子	62 三品秀和
5 亀田重満	17 三村信之	23 大脇正哉	34 中嶋麻子	定8 釜田健二
10 安井恒雄	17 天野清美	24 高橋成夫	34 小林美智子	旧職員 渡辺典子
10 塩谷伸晴	18 辻 健郎	24 中山登晴	36 伊藤辰夫	
12 牧 とめ	19 木下道子	24 森 富雄	37 寺島正美	
12 林田美恵子	20 伊藤正伸	25 中根卓郎	37 瀧崎優佳	
13 斉藤二郎	20 水野金孝	27 若松文彦	37 南川綾子	

一般財団法人瑞陵高校瑞陵会基金の説明と協力をお願い

瑞陵会は平成25年に「瑞陵高校への支援」「在校生の教育活動の充実」「卒業生の同窓会活動の活性化」等に寄与することを目的として「一般財団法人瑞陵高校瑞陵会基金」を設立いたしました。具体的に申しますと、故廣瀬清市先輩(校医・五中24回)による海外派遣事業(平成17年度～平成22年度)や周年行事のような、中長期的事業や多額な経費を要する特例的の事業に対応することを考えてのことです。

ところで、瑞陵高校は2017年(平成29年)に創立110周年を迎えます。この記念事業として瑞陵会は以下のことを計画しております。

- (1) 感喜堂の耐震改修工事終了後、スライディングウォール、机椅子等を寄贈して定時制給食室の一部を学習室として整備するとともに、エアコンとあわせて多目的ホールとしても使えるようにする。(2300万円)
- (2) 先輩の成し遂げた偉業を顕彰し生徒に伝える事業(400万円)
例えば、一人芝居『杉原千畝物語』を上演
写真集『杉原千畝-命のビザ』の新入生への寄贈
諸先輩の関係図書・著作の寄贈等
- (3) 記念式典の開催(平成29年を予定)(100万円)
同窓生の記念講演、演奏会、パーティ等
- (4) その他(100万円)
感喜堂の一部に著名な先輩の資料・著作を展示するコーナーを設置
110周年名簿の編集…本年秋(10月頃)発刊予定
散逸アルバムの収集・複製
110周年記念事業実行委員会の設置等

これらの事業実現のためには総額約3000万円以上のご寄付を募らねばなりません。同窓会会員の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

郵便振替 口座番号 00880-4-183489

払込先 一般財団法人 瑞陵高校瑞陵会基金

※瑞陵会活動維持のための賛助会費とは異なります。ご注意ください。



高額寄付者

12 判治誠吾	11 那須義弘	22 近藤哲典
17 中村利雄	14 山田隆國	22 足立政治
17 天野清美	14 鈴木淳嘉	22 加藤文隆
17 青木偉晃	15 濱田 堯	22 松良正志
17 久田宗弘	16 荒木郷兵	24 中山登晴
17 加藤光治	16 松井和之	24 森 富雄
17 西田克彦	16 山田和枝	25 天鷲操子
17 高羽俊彦	16 江副嘉彦	25 寺西利夫
19 浜島昭二	16 廣田健一	27 東 信昭
19 栗田敬八	17 松岡栄治	29 佐藤正徳
20 佐合広利	17 小林澄子	29 濱島隆之
24 上杉修平	17 竹本憲司	34 勝山裕康
27 西郷 孝	17 小野田春代	34 小室悦子
29 青山和暁	17 加藤正躬	
	17 水野達郎	
	17 片山眞紀	
	18 安島政実	
	19 高河原啓子	
	20 森 重統	
	21 秋田真希子	
	21 柴田達男	



編集後記 //

当会報にいつも広告を出していただいていた瑞陵15回卒、(株)新栄商会の時津忠さんが昨年12月に亡くされました。そのことを知らずに今年も広告掲載のお願いをお送りしたところ、会社を引き継がれた御子息の時津達也氏から、御父君ご逝去のお知らせとともに広告を引き継ぐ旨のご連絡をいただきました。二代に渡る瑞陵会ご支援に感謝し、故時津忠先輩のご冥福をお祈り申し上げます。

また旧講堂の件もあり、近年は時々新聞の話題になります。今年3月には朝日新聞の日曜特集「教育2014」で三回にわたり取り上げられました。題して「瑞陵魂」。故廣瀬清市先生の海外派遣事業の紹介を皮切りに(上)、支援を引き継ぐOBの輪を紹介し(中)、「正しいと思ったことを行う」杉原千畝の精神を後輩に伝えたいという私たちの思い(下)を「瑞陵魂」と表現してくれました。有り難いことだと思います。(S.H.)

瑞陵会ホームページのご案内

会報は瑞陵会のホームページにも掲載しています。今まで郵送でお届けしていた同窓生で、ホームページがあれば郵送不要と思われる方は、編集委員までお知らせください。

shoji.hamajima@gmail.com

教育 2014 瑞陵魂

後輩のため寄付3億円

校医のOB「海外出て社会に役立てて」

平成26年3月9日(日) 朝日新聞掲載許可済

瑞陵法曹会有志一同

外堀通り法律事務所
高木 修 (瑞5回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-2-7
丸の内弁護士ビル901号
TEL.052-201-7656 FAX.052-204-1244

浅井法律事務所
浅井 得次 (瑞8回)
〒460-0008 名古屋市中区栄2-7-13
ヴィア白川916号
TEL.052-223-3660 FAX.052-223-3661

東海法律事務所
石川 智太郎 (瑞11回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-35
弁護士ビル901・902号
TEL.052-961-0651 FAX.052-961-0653

千種総合法律事務所
塚田 昌夫 (瑞13回)
〒464-0075 名古屋市中区千種区内山3-18-8
千種法律ビル2階
TEL.052-731-0600 FAX.052-731-5340

弁護士法人 柴田・中川法律特許事務所
柴田 肇 (瑞15回)
〒440-0814 豊橋市前田町1-2-11
TEL.0532-53-7087 FAX.0532-54-2106

中部総合法律事務所
長谷川 忠男 (瑞15回)
〒461-0001 名古屋市中区東区泉2-3-20
長谷川ビル3階
TEL.052-931-9192 FAX.052-931-6062

さくら総合法律事務所
加藤 謙一 (瑞19回)
〒514-0007 三重県津市大谷町21-8
TEL.059-227-6951 FAX.059-225-5943

加藤茂法律事務所
加藤 茂 (瑞19回)
〒466-0064 名古屋市中区昭和区鶴舞3-8-9
TEL.052-732-7821 FAX.052-732-7822

中村正典法律事務所
中村 正典 (瑞21回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-6-27
EBSビル2階
TEL.052-971-7424 FAX.052-971-7425

金山総合法律事務所
渥美 玲子 (瑞22回)
〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-17
金山スズキビル8階
TEL.052-331-9054 FAX.052-331-9060

弁護士法人 岐阜合同法律事務所
安藤 友人 (瑞22回)
〒500-8812 岐阜市美江寺町1-5
岐阜北青色会館
TEL.058-264-3780 FAX.058-264-3784

成田龍一法律事務所
成田 龍一 (瑞23回)
〒460-0003 名古屋市中区錦3-14-14
夢現錦ビル6階
TEL.052-973-0531 FAX.052-973-0533

弁護士法人 名古屋総合法律事務所
浅野 了一 (瑞24回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-20-25
丸の内STビル6階
TEL.052-231-2601 FAX.052-231-2602

後藤和男法律事務所
後藤 和男 (瑞24回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-14-20
ザ・スクエア8階S8
TEL.052-202-0680 FAX.052-203-1417

大島真人法律事務所
大島 真人 (瑞26回)
〒460-0003 名古屋市中区錦2-19-1
名古屋鴻池ビル9階
TEL.052-220-2225 FAX.052-220-2228

白井法律事務所
白井 幹裕 (瑞33回)
〒460-0003 名古屋市中区錦3-1-30
錦マルエムビル3階
TEL.052-218-0566 FAX.052-221-5656

光が丘法律事務所
佐藤 成俊 (瑞38回)
〒464-0006 名古屋市中区千種区光が丘1-18-3
TEL.052-712-3350 FAX.052-712-3352

ジェイ・ユー・エヌ服部順法律事務所
服部 順 (瑞38回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-25
清風ビル5階
TEL.052-962-8511 FAX.052-962-8512

足立法律事務所
中島 朋子 (瑞56回)
〒441-8021 豊橋市白河町61番地
ターミナルプラザ801号
TEL.0532-33-4831 FAX.0532-33-4830